

平成23年度 友松会 総会

2011.6.25 (土) 於 平塚プレジール

「同窓の絆を深めよう」友松会会長挨拶 (要旨)

本年度は総会にあたり、「母校の伝統を守り、同窓の絆を深めよう」というスローガンを会員の皆様と共有したいと思います。



さて、友松会が明治21年に開設されて本年は123年になります。かつて歴史と伝統を誇る教員養成校として卒業生の殆どが教育界に進み、教師として活躍してきました。そのため、先輩、後輩としての同窓の絆も強く、同窓会活動も活発に行われていたと聞いております。

しかし、平成年代になりましてから学部名も教育人間科学部となり、民間企業や大学院に進む卒業生が多くなりました。

本年度から教育人間科学部の機構改革が行われ、「学校教育課程」と「人間文化課程」の二つになりました。教育界へ進む卒業生の率が上がることを期待しています。教員にならなくても本部、支部事業に参加していただき、一緒に活動したいものです。

本年、第6回ホームカミングデー(10月29日(土))は友松会が担当しての開催になります。互いに誘い合っただけで、友松会だけで300人の参加を目標にしています。今までも全体で1000人以上の参加者を得て、大学と卒業生の連携を深め、お互いの絆を深めることに役立っています。常盤台キャンパスへの大勢の方々を期待しております。

募金事業は、国際交流事業の促進とキャンパス整備目的として平成21年10月1日から平成24年3月までの2年半にわたって募金総額1億5千万円を目標が進められています。今のところ個人による寄付が着々これから法人等へお願いをする計画を立てています。

ここ数年同窓会費納入会員が激減しています。

納入状況を見ますと、平成19年度は4008人、平成22年度は、3439人です。

平成21年度に友松会財政再建特別委員会を立ち上げ、どうしたら再建できるか、中・長期的な計画を立てて再建していくことに致しました。

- ① 寄付金制度を設け寄付を常時受けつける ② 準会員(現役の学生)の加入促進
 - ③ 会報やホームページに寄付の掲載 ④ 同期、科、サークルなど多様な支部を作る
 - ⑤ 切り詰められる所はできるだけ切りつめた予算にする
- 等のことを実施します。

今後は教育界以外の方々の組織化の工夫をしたいと考えています。青春時代を同じ大学で共に過ごした仲間に声を掛け合い、友松会の事業に参加するようお願い致します。



に大い
の参加

事業を
31日ま
に活動
と進み、

= 来賓祝辞(要旨) =

横浜国立大学学長 鈴木邦雄 様

総会開催へのお祝いの言葉と東日本大震災復興への願いについて話した後、築50年に近い大学の建物は、数年前から耐震建築を進めていたため今回の地震でも殆ど被害がなかったこと、震災翌日が後期日程の入試



予定であったが、実施方法を変更して無事合格発表できたこと、卒業式は残念ながら取りやめたが、4月からの講義は予定通り実施でき感謝に堪えないことなど、大学の状況について説明があった。さらに、ホームカミングデーを10月29日(土)に実施する予定なので是非参加頂きたいということ、フリッカー賞や文化功労者に選ばれた大学関係者の嬉しいニュースのこと、学部や大学院の改組についての説明などがあり、新学部への理解と支援を求め、友松会の発展を願って挨拶を

締めくくった。

平塚市市教育委員会教育長 金子誠 様

中地区では、3市2町の教育長の会合をもっているが、本日は平塚市での開催なので代表して挨拶させて頂くこと、友松会はレベルの高い会合として認識していたのでお招き頂き光栄であることを前置きして、東日本大震災後の教育現場の状況などを話した。

市議会で原発教育の内容を問われ、中3の理科・公民で短所・長所の両面を扱っていることを知らせ、教科書採択や、35人学級を1年生から実施していることなど教育課題にも向き合いながら、「いじめ、不登校、暴力行為」のワーストワン返上に向け鋭意努力していることなどを話され、最後に総会の充実を願って挨拶を締めくくられた。



= 記念講演 = 演題「環境によって変わる脳」

講師 横浜国立大学教育人間科学部 前附属鎌倉中学校長 種田 保穂教授

講師紹介：伊勢原支部 細谷 毅義

謝辞：伊勢原支部 柴田 尚

<講演要旨>

○これまで「生物は環境の変化によって、行動・形態・生活、さらに脳までもが変化すること」に強い興味を持ってきた。

○「環境が変わると形が変わる」事实は、植物をはじめ生物全体に見られる。

○「コオロギは、育ち方によって凶暴になる」という研究がある。プラスチック容器で、他者を見るこ



とは可能だが、接触が全くできないように育てられると、他者と交わると食い殺す行動を取る。これはコオロギの脳が変わった結果だと考えられる。

- 「脳内汚染」「セロトニン欠乏脳」等の著作を見ると、TV・ゲーム等のバーチャル文化の拡大は、殺人事件の増加等、人間の問題行動の増加を促す要因と考えられる。
- 「ゲーム脳」は、前頭前野が機能していない状態を言うが、「きれやすい」あるいは、「無気力」等の行動変化が見られる。
- ゲームは、子供たちの脳を変え、社会を変えていると言っても過言ではない。生徒たちにも話した事だが、長時間ゲームを行うこと自体が脳を変えるのであって、ゲームの内容が問題ではないことを強調したい。

= 表 彰 =

< 松澤研究奨励賞 >

本年度は

林 秀樹教諭（大磯町立国府小学校）

田畑彰紀教諭（横浜市長二谷小学校）が
受賞されました。

< 卒寿 >

本年度は、卒寿を迎えられた 11 名の
会員の方が、総会にて長寿のお祝
いを受けられました。



第 17 回「豊かな教育を語る会」のご案内

平成 23 年度松澤研究奨励賞受賞者は、第 6 回 HCD 当日、「豊かな教育を語る会」にて研究発表されます。

- 1 日 時 平成 23 年 10 月 29 日（土）
- 2 会 場 横浜国立大学教育人間科学部
- 3 内 容 平成 23 年度松澤研究奨励賞受賞者の研究・実践を中心に研究協議
- 4 発表者 松澤研究奨励賞受賞者 大磯町立国府小学校 林 秀樹先生
横浜市長二谷小学校 田畑 彰紀先生

懇 親 会



第1部の総会、第2部の講演会が終わり、5階の会場に移動。参加者200余名がA～Pの16のテーブルに着き12:45開会。

「開会のことば」では、伊勢原支部長の石黒利昌氏が、本日の読売新聞に掲載されていた横浜国立大学学長の鈴木邦雄先生の「名教自然」についての記

事を紹介した。実行委員長挨拶では平塚支部の齋藤正三氏が、3市2町の人々が、人間関係を広げながら、今回のスローガンである「母校の伝統を守り、同窓の絆を深めよう」を目指して協力してきたことを話した。



続いて来賓祝辞では、横浜国立大学教育人間科学部部長の

小野康男先生が、

- * 平成23年4月、学部・大学院の大幅な改組を行ったこと。

- * 折角教員に採用されたのに、勤めて半年～1年で辞める卒業生がいると危惧している。

- * 秋のホームカミングデーや1月10日に予定されている教育デザインフォーラム多数の参加をお願いしたい。

ことなど、大学の現況も含めて話をした。

新会員紹介では、男性2名、女性2名の新しい教員が、それぞれ抱負を述べた。



最後に旧師範学校時代の校歌、学生歌を参加者全員で合唱し、来年6月30日に総会開催が予定されている小田原・湯本での再会を約して14:30に閉会した。

友 松 会 〒220-0073 横浜市西区岡野 2-12-20
県横浜西合同庁舎 神奈川県退職公務員連盟内
電話 045-411-2543 FAX 045-411-2544